

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立浦和商业高等学校)

目指す学校像	グローバルに展開する経済社会において、多様な分野で幅広く活躍する商業人材の育成
--------	---

重点目標	1 資格取得などの段階的な目標設定を通じて高度な知識・技能の習得を図るとともに、応用力・創造力を育む探究活動を通じてたくましく生き抜く力を養う。 2 地域の中核を担う商業高校として、教育活動の充実を図り、魅力ある商業教育を推進する 3 キャリア教育を推進し、社会人として必要な知識・技能や教養とマナーを身に付け、規範意識を持ち、生涯にわたり主体的に行動できる人材を育成する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校評議員	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価						
年度目標				令和4年度評価(令和年月日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【たくましく生き抜く力の養成】 ○ [現状] 観点別学習状況評価の実施初年度であること [課題] 観点別学習状況評価の着実・効果的実施により、指導と評価の一体化の推進 ● (現状) 生徒の主体的な学びを引き出す授業が求められること (課題) 教授方法・内容の改善と、そのためにICTを効果的に活用すること	○ 観点別学習状況評価の効果的な実施を進めるとともに、その評価を次の指導に生かす、指導と評価の一体化を推進する。 ● 主体的な学びを引き出すアウトプット(議論・記述・発表等)型の教授方法・内容の工夫を図るとともに、ICTによりそれを効果的・効率的に実施する。	○ 学校自己評価システムシート(SS)の評価・改善(各学期末)の中で、生徒の納得性・公平性を高める評価がなされているか、各教職員が生徒による評価を次の指導に生かしているか調査を行う。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、各教職員が授業互見(授業公開や授業観察)、ICTと「教材ルーム」を効果的に駆使した授業を行っているか、生徒や教職員に調査を行う。	○ ・観点別学習状況の評価の導入に当たり、指導と評価の一体化は適正に運用されたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● ・ICT機器を活用した授業は日常的になったか。 ・生徒の授業に関するアンケート結果で満足度は85%を超えたか。(いずれも、各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善)		
	2	【魅力ある商業教育の推進】 ○ [現状] 学校情報の質量充実した発信と、それに値する教育活動の実施が求められていること [課題] 学校説明会等の参加者数と希望・志願倍率の増加 ● [現状] 県予算の逼迫状況や保護者負担の軽減の観点から予算支出の軽減が求められていること [課題] 県費・団体費予算の効果的・効率的な執行	○ 外部教育資源と連携した魅力ある商業教育の推進により、学校説明会等への参加者数や希望倍率、志願倍率を向上させる。 ● 魅力ある商業教育を推進するため、予算の効果的・効率的な執行を進める。	○ 学校ホームページ(HP)の頻繁更新や外部連携活動等により、中学生やその保護者を学校説明会等へ誘(いざな)い、説明会等でそのハートをキャッチする。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、主に水道光熱費を対象としてペーパーレス化やICT化を進め、効果的にして効率的な教育活動を推進する。	○ ・学校行事や部活動の活動内容等について、こまめにホームページに更新(月25回以上)できたか。 ・生徒を前面に出した学校説明会を実施できたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● ・経費の有効活用を進めるため、連絡や配付物のペーパーレスやICT化は進んだか。 ・コロナ対策を十分施した効果的な学校行事が実施されたか。(いずれも、各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善)	
3		【主体的に行動できる人材の育成】 ○ [現状] 生徒のキャリア形成のため、キャリア・パスポートの一層の有効活用が求められていること [課題] キャリア・パスポートの一層の有効活用 ● [現状] 生徒のキャリア形成のため、支援ツールの連携が求められていること [課題] 支援ツールの効果的な連携	○ 主体的に行動できる人材を育成するため、本校のキャリア・パスポート(キャリアパス)の評価・改善を進める。 ● 支援ツール(キャリアパス、生徒手帳、高校生のための学びの基礎診断など)の頻繁利用と支援ツール間の連携を高める。	○ 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、進路指導部と各学年を中心に、キャリアパスの有効活用とその評価・改善を図る。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、進路指導部を中心に、生徒の学びを調整する力を育成できるよう、あらゆる支援ツールをキャリアパスに連結させる仕組み(=つなげる化)を構築する。	○ ・生徒の自己啓発育成のための面談を年3回以上実施できたか。 ・進路指導部先導で、キャリアパスと進路の手引きを活用した、主体的・活動的な目標設定やその実施ができたか。(各学期末に教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● ・生徒理解に基づくキャリア形成を図るために、関係部署と連携しながら、教職員の共通理解は図れたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ・支援ツールに対するベクトルを合わせるために、職員研修会を年2回以上実施できたか。	

学校関係者評価	
実施日	令和年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等	